

御進級 & 御入園 おめでとうございます

2017年度の歩みが いよいよスタートです！

今年の子ども達は皆、不安や心配、戸惑いなどの思い以上に、新しく・大きくなれた喜びが全身から溢れ出ていて、前向きに張り切っている姿がとても頼もしかったです。

今年度の、保育に於ける年間テーマは『愛されて育つ』です。

「あなたがたは神に愛されている子どもです（エペソ人への手紙 5：1）」の聖書のみことばを基に掲げられています。 “自分が愛されている” と知ること、実感して育つことは、人が人として生きる上でその心の在り方に大きく影響されるものであり、乳幼児期にこそ培われるべき、人にとって最も必要で大切な意識だと思えます。

「人はコップのようなものです。空っぽの状態で生まれてきます。そこに、お父さんやお母さんが愛情を注ぎます。優しい言葉をかけ、きめ細かく愛します。肌と肌が温かく触れ合います。愛がたっぷり注がれ、その子に溜まります。やがていっぱいになり、あふれ出します。だから、温かく優しい言葉を受けた子どもから流れ出すのは、温かく優しい言葉です。反対に、厳しく責められて育つと、その子が発するのも厳しく責めるような言葉になります。虐待を受けた子が育ち、親になると、しばしば、わが子を虐待してしまうというのも同じです。人は、自分が受けたものしか出すことができません。だから 幼いとき、愛をたっぷり受けることが大切です。けれども人は、育った環境ですべてが決まってしまうわけではありません。たとえ人に愛されることが少なくても、神の愛は注がれています。（“キリスト教保育” 4月号より）」

私は1人の人として、大人として、保育者として、保育園生活の様々な出来事を通して事ある毎に子ども達と真摯に向き合いながら「神さまの愛」を伝えたいと思っています。そして何より、人は皆、自ら生きているのではなく、必要とされ生かされている存在であること、皆ひとりひとりが違うこと、違っていいこと、どんな時も見守られ、導かれそれぞれがたった1つのかけがえのない命として、愛され、信じられ、赦されていることその存在を、子ども達と共に 私達大人もまた、神様に愛されている者として実感し合い、分かち合い、感謝し合いながら、祈りつつ、前進していきたいと願っています。私自身は子どもへの愛情のかけ過ぎ、注ぎ過ぎなど、決して無いと思っています。ひとりひとり大切なお子さんの人生の基盤となるこの時を「つのびえ保育園で過ごしてよかった！」と思って頂けますよう、職員一同、心をこめて、精一杯、尽力して参ります。

今年度も どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

この1年が、つのびえ保育園にとって、神様の祝福と希望の光に満ちた、明るく安らかな歩みとなりますように、世界中の子どもたちの平和と共に、祈りつつ・・・（石田 記）